

IRC 概要説明メモ

1. IRC との日本国内との契約

現在（4月6日現在）契約は一切ない。

2. IRC の普及に関する英国・RORCの考え方

ヨットのオーナーが、ショーウインドウの中に IRC が飾ってあるそれを選択するもよし、選択の自由を大切に。

3. IRC の導入を進めた場合のパートナー

あくまで日本におけるルールを管理するNAたる JSAF を通すが、もし JSAF 以外であれば JSAF が正式にノミネートした組織であることが肝要。

4. ルールの歴史

1999年に導入され RORC と UNCL（フランス）が管理している。

このルールの前身は CHS（チャンネルハンディキャップ）。

5. 世界の IRC 状況

2005年末で世界31カ国 7000艇がこのハンディキャップを取得。

2003年に ISAF が国際ハンディキャップとして認定した。

過去10年で年率平均3.5%の伸びを見せている。

各国の普及状況： 英国が1800艇、スペインが1000艇。普及せず→ドイツが海外に船を持つドイツ人20艇のみ。米国は2004年末で50艇から1年で550艇（USSのプロモーション）に増加。

国際レースではカウズウイーク（300艇）シドニーホバートレース、プーケットキングスカップ、チャイナシーレースなどアジアを含めた国際メジャーレースでの採用されている実績がある。

6. ルールの対象

バラストを持つモノハルキールボート

クルーザー、クルーザー/レーサーの広範囲のボートに適応。

古いボートにも適応し、また新しいボートの設計も阻害しない。

ポイントはスタビリティ、耐航性、

古いカッターから VOLVO70、J-ボートまでレーティング可能

7. ルールの原理、原則

各ボートに対するレーティングでありそのボートに関して世界どこでも同じレーティングでレースができる（国際レースの参加可）

ハンディキャップではなく勘ピューターおよびレース結果修正はない

レースの運営は Time-on-Time を推奨。Time-on-Distance での運営も不可能ではない

8. ルールの秘匿性（ブラックボックス）

ルールの秘密保持（ブラックボックス状態）がこのレーティングを長く保持できるポイントである。

この IRC レーティングは RORC と UNCL が少人数で極秘に管理しており、決して外部に流出しない。

9. 計測

IRC はオーナーの自己申告でのデータ入力を容認している。

ただし運用は各国がきめている。 オーストラリア→全計測、英国→全自己申告、 米国→サイズにより計測を自己申告（35～40 Ft を境に） 自己申告後 IRC レーティングオフィスが証書を発行 通常 3～4 週間。 この件の特徴は計測を省き安価での登録も可能。

10. トライアル・サティフィケート

設計途中でトライアルサティフィケートの発行が可能。

ただし 設計、計測、など業界関係の当事者の設計は回数などに制限あり。

11. 刊行物

IRC イヤーブック、など技術運営など多岐にわたっている。すべて CD に入っている（だれでもコピー可）。

12. ルールの見直しなど

毎年秋に会議を行う。今年は 10 月中旬 サウザンプトンにて。

13. 海外の窓口

通常は各国のオーソリティー（NA）

14. レーティングアプリケーション

申請用紙は WWW もしくは IRC の CD から入手可能

15. 証書発行費用（2006年）など

新規取得（10mボートの場合） 82.0 英国ポンド（約 ¥16,800）、

更新 71.0 英国ポンド（約 ¥14,500）、

毎年更新が必要。

（このうちの6割がRORC分、4割をNA分としている）

費用としては上記証書申請発行費用と 各国 NA の裁量で金額を決められる計測費用、および重量測定費用が発生する。これの上納金は無い。

16. レーティングの管理

IRC レーティングオフィスでは標準ハルのデータ約400艇

今まで計測し保持しているデータが25000艇ある。

もしデータが間違ってもチェックすることで発見できる可能性大

以上